

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

弥生人の争いと、人口密度の高まりとの関係について、考古学の研究成果が発表されました。記事を読んで質問に答えましょう。

弥生人「密」ほど争い



眼窩(か)部に切り傷(矢印部分)が残る弥生時代中期の人骨(福岡県筑紫野市、隈西小田遺跡出土)

弥生時代は水稲農耕の普及で経済基盤が確立し、生活が安定して人口も増加した。一方、収穫物や耕作地を巡って争いが起き、人々は集落を掘で囲んだり、守りやすい山頂や丘陵に居住



松本直子所長

岡山大文明動態学研究所
松本所長ら発表

弥生人の争いは人口密度の高まりが影響した一。岡山大文明動態学研究所の松本直子所長(考古学)らの研究チームは、弥生時代中期の墓の数から算出した人口圧(人口密度)と、外傷を負った人骨の相関関係进行分析。人口圧が高いほど争いが増える傾向が明らかになったと発表した。(小谷章浩)

北部九州 埋葬数や人骨分析

松本所長らは受傷人骨の多さから、激しい争いが繰り広げられたとみられる弥生中期の北部九州に着目。同地域では当時、土器の甕に遺体を収める「甕棺」の埋葬が広がり、人骨が良好な状態で出土している。調査では、甕棺の数と刃物などで傷つけられた人骨のデータを精査。地域と時期を細分して、埋葬数を基にした人口圧と、全体の埋葬数に対する受傷人骨の比率(暴力の頻度)をグラフ化し推移を比較した。その結果、多くの地域・時期で人口圧が高まるのに伴い暴力の頻度も上がり、低下すると下がる相関関係が確認できたという。最も著しい例では、中期中葉から後半にかけ埋葬数が約600体から千体以上に急増した地域で、それに比例して受傷比率も1・5倍に増えた。

チームはほかに南山大、東北大、国立歴史民俗博物館の研究者が参加。成果は今年、米考古学専門誌に掲載した。松本所長は「人口圧は争いの要因と考えられてきたが、考古学的に裏付けられた。争いを減らすためにどのような社会、環境を作るべきかを考える足掛かりになれば」と話している。

6月28日付、山陽新聞社会面

Q1 ★★☆☆

「弥生人『密』ほど争い」という見出しが、どんなことを表しているか、リード(第1段落)に注目して説明しましょう。

Q2 ★★☆☆

研究では遺体を収める「甕棺」の数と刃物などで傷つけられた人骨のデータを調査しました。どんな結果が出ましたか。第4段落を読んで答えましょう。

Q3 ★★☆☆

現代人はどうすれば争いを減らせるでしょうか。弥生時代と現代の暮らしを比べながら周りの人と話してみましよう。

★の数は問題の難易度を表しています。



昔の人も今と同じような理由で争っていたのかなあ